

国際開発機構(FASID)では、国際開発関連分野における博士の学位取得を目指す方の支援として奨学金プログラムを実施しています。奨学生各位には研究活動や成果について報告・発表の機会を設けており、このたびは鈴木貴明氏(5期)を迎えます。

鈴木氏は、これまで救急医療を軸足に国際医療協力を続けてこられました。

現在は、人口 200 人に満たない沖縄・久高島で島医者として島民のいのちと暮らしを支えています。

そこに広がるのは、途上国の保健医療現場と 驚くほど共通する課題構造。

限られた資源、住民参加、現場発の仕組みづくり。日本の離島医療とグローバルヘルスの現場は、実は地続きです。国際協力の視点で「小さな島」から世界を考える、そんな対話の場にご期待ください。

住民が立ち上がる救急医療

ラオスの現場から共に考える持続可能な支援のかたち
- ボランティア EMS と共創した実証研究・協働プロジェクトの歩み -

報告者: 鈴木 貴明 氏

沖縄県立南部医療センター こども医療センター附属 久高診療所 所長・医師

筑波大学医学医療系 救急・集中治療医学 客員研究員

FASID 第5期 奨学生 / 博士(公衆衛生学)

2015 年、ラオスのボランティア救急隊と出会い、住民自らが立ち上がる救急医療の力と課題に感銘を受け、現場で生まれる実践をいかに社会の仕組みや政策につなげるかを模索してきました。

2017 年からの博士研究では、住民主体 EMS(救急医療サービス)のアウトカムや社会的インパクトを数値化し、政策的にも有用なエビデンス創出に取り組みました。続く JICA 草の根技術協力事業(2021-2024 年)では、現地行政や住民と協働し、通報体制や人材育成など多面的に支援。生存率だけでなく、活動の質や持続性を高める“共創”を重視しました。2024 年からはトヨタ財団の助成で、EMS の持続可能性と組織・制度課題にも挑戦しています。本報告会では現場発の知見を通じ、国際協力の今後を皆さまと考察します。

2025年8月1日(金) 12:30-13:30

オンライン(Zoom)

参加無料 (事前申込が必要です)

締切り: 7月30日(水)

申込み https://www.fasid.or.jp/scholarship/4_index_detail.php

(鈴木 貴明・すずき たかあき)

救急科専門医・指導医、公衆衛生専門家。国立国際医療研究センター、筑波大学附属病院で 10 年以上にわたり救命救急の最前線に従事。2015 年以降はラオスをはじめ ASEAN 諸国全体で、救急医療体制の構築・強化支援に注力。ラオスでは住民ボランティア EMS の現場調査・伴走支援を行い、JICA 草の根技術協力事業ではプロジェクト・マネージャーとして立案・主導を担った。筑波大学大学院で博士(公衆衛生学)を取得(FASID 第 5 期奨学生)。博士論文では、ラオスにおける交通外傷患者の生存転帰と救急医療サービスの関連を実証的に分析し、現場発の課題解決型研究に注力した。現在は沖縄県の離島・久高島で地域医療を実践しながら、筑波大学医学医療系客員研究員としても研究活動を継続している。今後も住民とともに持続可能な救急医療モデルの共創を目指し、グローバルヘルス分野への貢献を志している。

主催・お問合せ 一般財団法人 国際開発機構 FASID 奨学金プログラム事務局 (担当: 服部)
〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-18-19 UD 神谷町ビル 10 階, email: gakui@fasid.or.jp